

平成30年第4回 第2号 12月3日

4. 個人質問 さんむ21 石川和久 議員

① 防災の充実について

② 地域海岸について

○3番（石川和久君） 議席番号3番、会派さんむ21、石川でございます。議長にお許しをいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

はじめに、防災対策の充実についてお伺いいたします。

我が国は四方を海に囲まれ、国土の8割以上が森林に覆われた山地で占められ、豊かな自然と海の幸、山の幸に恵まれた島国であり、国土の大半が温帯に属し、各地で四季折々の風物詩を楽しむことができます。そうした諸条件の中、温泉や海辺の景観など、自然の恩恵を受け、今まで文化や生活様式が育まれてきたわけでございます。

しかし、その一方で、地理的、地形的、気象的条件やさまざまな構造などで、地震、津波、火山噴火、台風、水害など、多種多様な災害が多発する災害大国でもあります。恵み豊かで、景観の美しい国土と多発する災害は、表裏一体の関係にあるわけでございます。自然がもたらす恩恵と自然災害という脅威に、どうやって向き合っていくかが、この我が国の大きな課題だと思うわけでございます。

そのような災害大国である我が国は、過去の多くの災害から学び、防災力を向上させてきました。しかし、山武市においても忘れることができない大震災、東日本大震災は、これまで防災力を向上させてきた我々に、さらなる課題を突きつけてきたのではないのでしょうか。

そのような中、我が市でも、災害で得た教訓として、今まで防災対策のハード、ソフトの両面から、安心安全な災害に強い山武市のまちづくりを目指して、多くの事業に取り組んできたことと思います。少子高齢化、人口減のこれからの防災対策は、自助、共助をいかに強化していくかが重要であり、市民、地域の防災意識向上の強化、そして、公助の役割における連携強化でございます公助の役割として、我が市は何ができるのか、何がベストなのか、さまざまなことを考えて、質問していきたいと思っております。

そこで、津波対策のハード事業の1つであります千葉県が実施している本市海岸地域の防潮堤です。津波災害時には、一番先に我々を守ってくれる防潮堤でございます。進捗状況はどうかお伺いします。

○議長（加藤忠勝君） 都市建設部長。

○都市建設部長（平出博男君） 最初に、防潮堤の進捗状況について、私のほうから答弁させていただきます。

はじめに、横芝光町境より蓮沼地区の殿下海水浴場及び木戸川から九十九里町境までの区間を、千葉県山武土木事務所所管の築堤工で整備しております。

一方で、蓮沼地区の殿下海水浴場から木戸川の区間につきましては、同じく県の北部林業事務所所管の砂丘堤で、現在、工事が進められております。

なお、成東地区の本須賀・白幡・井之内海水浴場、また蓮沼地区の南浜・中下・殿下海水浴場付近以外は、おおむね平成30年度に工事が完了するとお聞きしております。

以上です。

○議長（加藤忠勝君） 石川議員。

○3番（石川和久君） 次に、今後の予定は、また、全ての工事完了の時期は、いつを予定しているのか伺いたします。

○議長（加藤忠勝君） 都市建設部長。

○都市建設部長（平出博男君） 今後の予定でございますが、工事未施工箇所の各海水浴場付近の工事を進めることとなります。

海水浴場は、本市の重要な観光資源でありますことから、海水浴シーズンを避けるなど、関係者と調整の上、本市内全ての工事を平成31年度までの完成に向けて、進めていくと聞いております。

以上です。

○議長（加藤忠勝君） 石川議員。

○3番（石川和久君） 先ほども御答弁がありました、海水浴場などは、観光と防災を両立しなければならない重要な場所でございます。本須賀海岸の場所は、一部変更になったと聞いておりますが、具体的な状況はどうでしょうか。

○議長（加藤忠勝君） 都市建設部長。

○都市建設部長（平出博男君） 本須賀海水浴場における防潮堤の設置場所につきましては、当初、駐車場海側に計画されておりましたが、地元区から保安林区域内への設置要望を受け、市では関係課と協議の結果、保安林区域内への設置を、県に要望させていただきました。県では、市からの要望を受けまして、保安林区域内への設置に向け、協議を進め、今年度は保安林解除の手続を進めているところでございます。

工事完了の時期につきましては、さきの答弁でもお答えしたとおり、本須賀海水浴場は、本市の重要な観光資源であることから、海水浴シーズンを避けるなど、関係者と調整の上、平成31年度完成予定と伺っております。

以上です。

○議長（加藤忠勝君） 石川議員。

○3番（石川和久君） 防潮堤の件なんですけれども、平成31年度に完成ということで、津波・地震災害は待つてはくれません。ぜひ県のほうにしっかり確認をしながら、要望と

いますか、遅れないように、必ず平成31年度以内には防潮堤の完成をできるように、また、強く働きかけていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

次に、県は、1,000年に1度の最大級規模の地震・津波による県内への浸水被害想定を初めてまとめ、11月13日に公表されました。具体的な山武市の状況については、どのように確認しておりますでしょうか。お伺いいたします。

○議長（加藤忠勝君） 総務部長。

○総務部長（石橋和記君） 県でございますけれども、議員御指摘のとおり、11月13日に、津波の浸水想定を発表しております。

県は、過去の全ての地震から、最大の津波を見積もりまして、津波の浸水想定としておりまして、その津波の規模は、市では10メートルを想定しておりますけれども、それよりも低い約7.7メートルの津波であると確認をしております。

○議長（加藤忠勝君） 石川議員。

○3番（石川和久君） その県の津波浸水想定公表により、我が市としては、どう対応していくのかお聞かせください。

○議長（加藤忠勝君） 総務部長。

○総務部長（石橋和記君） 近年の災害では、よく想定外という言葉が多く使用されております。そのため、被害が拡大しているとも言われております。市といたしましては、努めて想定外をなくしたいと考えております。そのため、県の津波浸水想定を参考といたしまして、市のハザードマップに記載の10メートルを基準として、津波への対応を続けてまいりたいと考えております。

○議長（加藤忠勝君） 石川議員。

○3番（石川和久君） 市のハザードマップの10メートル津波を想定し、防災を考えていくということでございますが、先ほど、県では7.7メートルと出ております件と、市の防災の考え方について、不具合が発生することはないのでしょうか。その辺お伺いいたします。

○議長（加藤忠勝君） 総務部長。

○総務部長（石橋和記君） ハード面では、確かに県の津波浸水想定が適用されることとなると考えております。ハード面はあくまで国や県の承認を得て、事業化することがほとんどですから、市と県のハード面での齟齬はないと考えております。

また、災害を減災する、いわゆるソフト面におきましては、対応いたします想定の違いによる齟齬は生じないと思われまふ。先ほども述べましたが、想定外をなくしまして、対応できるような現行の津波浸水想定で対応していきたいと考えております。

○議長（加藤忠勝君） 石川議員。

○3番（石川和久君） より厳しい状況で対策を考え、準備をするということは、発災時の躊躇^{ちゅうちよ}や混乱を減少させ、かつ災害対応につながるものと思います。

次に、地域防災計画についてでございます。

市の地域防災計画は、平成26年9月に作成されており、4年経過しておりますが、現在にマッチしていないのではないのでしょうか。計画の修正・見直しを予定されているかどうか伺いたします。

○議長（加藤忠勝君） 総務部長。

○総務部長（石橋和記君） 御指摘のとおり、作成から4年以上が経過いたしまして、現状に適していないところがあります。市といたしましては、来年度当初に、災害対応業務の実効性を向上させるための業務継続計画、いわゆるBCPと言われるものでございますけれども、そちらを策定いたしまして、その後、災害対策業務で不足する人、物等の資源を補うための計画を作成いたします。

また、災害時、職員初動マニュアルの更新等も予定をいたしております。その後に、地域防災計画を大幅修正し、平成32年度内の修正の完了を考えております。

○議長（加藤忠勝君） 石川議員。

○3番（石川和久君） 作成の見直しを段階的にやっていくということはわかりました。各種計画やマニュアル、ハザードマップは、また経年で変化させなければいけないと思いますが、こちらに関しては、定期的に見直しの考えはありますでしょうか。

○議長（加藤忠勝君） 総務部長。

○総務部長（石橋和記君） 各種計画につきましては、2年で修正を図りたいと考えております。

また、ハザードマップの見直しにつきましては、3年でできればと考えております。

○議長（加藤忠勝君） 石川議員。

○3番（石川和久君） 次に、市の災害対応業務について伺います。

近年、大きな災害が発生しております。災害の後には、必ず行政の対応について否定的な意見が聞こえてきます。特に発災直後の応急対応が不十分であるとの声が多いように聞こえます。過去の災害対応の教訓をうまく生かし切れていないという1つの形ではないでしょうか。

どこに原因があり、市としては、何か取り組むことがあれば教えてください。

○議長（加藤忠勝君） 総務部長。

○総務部長（石橋和記君） 原因でございますけれども、地域防災計画は整備されているものの、職員が計画の内容を十分に理解できていなかったものではないかと考えております。

また、市民の皆様の自助、共助の意識の薄さですとか、行政任せの体質も、災害対応業務を増やすことになったのではないかと推測をいたしております。

そのため、業務継続計画を、業者を入れずに、職員により作成をいたしております。こ

れによりまして、職員の災害対応業務の理解につながり、実効性が向上するものと思われます。

また、機会を捉えて実施しております講話等によりまして、自助、共助の重要性について、呼びかけをいたしていくところでございます。

○議長（加藤忠勝君） 石川議員。

○3番（石川和久君） 今の回答にもございました職員の災害業務の理解が重要であるということだと思います。市として、より一層の職員の災害対応業務に対する理解促進のための施策があれば教えてください。

○議長（加藤忠勝君） 総務部長。

○総務部長（石橋和記君） 今年度でありますけれども、職員の防災に対する意識を高めるために、職員研修で、行政の災害対応についてと題しまして、講師をお招きいたしまして、講話をしていただいております。

今後は業務継続計画の作成を進めるとともに、作成後、各対策部内の班単位での災害対応業務についてのシミュレーション訓練を実施いたしまして、理解を深めていきたいと考えております。

○議長（加藤忠勝君） 石川議員。

○3番（石川和久君） 南海トラフ地震や首都直下地震への警戒が高まっております。東日本大震災や熊本地震などの大規模災害発生時には、ライフラインや情報通信網の途絶、パニックの発生、庁舎や公共施設の損壊、職員の負傷など、被災自治体の災害対応能力は、著しく低下すると思います。このため、被災自治体、特に市町村単独では、多岐の分野にわたり、かつ膨大な量の応急復旧活動を満足に遂行できないという事態が生じるのではないのでしょうか。

市は大規模災害発災時に、災害対応業務やそれに必要な職員などについては、どの程度、見積もっているのかお伺いします。

○議長（加藤忠勝君） 総務部長。

○総務部長（石橋和記君） 現在、大規模災害に対応するために、業務継続計画を作成しているところでございますので、その中で把握をしていきたいと考えております。作成段階におきまして、市の職員だけでは、災害対応業務が実施できるものではなく、多くの応援職員等を必要とすることも見込まれております。

○議長（加藤忠勝君） 石川議員。

○3番（石川和久君） 今の答弁で、多くの職員を要望するということですが、どこに要望をされるのでしょうか。

○議長（加藤忠勝君） 総務部長。

○総務部長（石橋和記君） 他の自治体からの職員、また、専門知識や技術、資格を有す

る有資格者、またボランティア等の要請につきましては、県が一元的に配置を行うようになっておりますので、県を通じて、要請するようになってくると考えております。

○議長（加藤忠勝君） 石川議員。

○3番（石川和久君） 私の認識では、首都直下型地震などの大規模な災害では、県内でも相当の自治体が被災し、山武市を果たして応援できるのか、同じ千葉県ですので、被災される地域は、同じ災害を被るということでございます。こういった中で、課題がまだまだあるのかなというところはあります。

そこで、市長にお尋ねします。大規模災害で、県全体がもし被災した場合への備えは何か考えておられるのであれば、その考えをお聞かせください。

○議長（加藤忠勝君） 市長、御登壇願います。

○市長（松下浩明君） 石川議員の防災の充実について、御質問ありがとうございます。議員が御心配をされているとおりでと考えております。

山武郡の市や町との災害時相互応援協定を締結をしておりますが、大規模災害時には、同様に市や町も被災をいたします。県内の市町村も、大規模災害が発生し、少しでも市町村に被害があれば、それほど多くの職員を他の市町村へ派遣できるとも思えません。

岩手県大船渡市とも災害時相互応援協定を結んでおりますが、東日本大震災のような災害においては、同様に被災をするわけでございます。このため、山武市が被災するであろう災害で被災することなく、移動に比較的時間を要さない地域で、同様の人口規模、また災害に対する知識を有する新潟県、茨城県、愛知県の自治体と災害相互応援協定を締結するための準備を、今、始めたところでございます。

今後は、石川議員をはじめ、議員の皆様方に御報告をさせていただきますので、よろしく願いをいたします。

○議長（加藤忠勝君） 石川議員。

○3番（石川和久君） ありがとうございます。

県に依存しても、県がなかなか手が回らないということは、十分にあり得ると思います。そのとき後悔するのでは、我々市民としては困ります。防災こそ、自治の原点であると、私は思っております。自ら、災害対応の強化を進めることは、重要なことでございますから、ぜひ、市として、考えがあるのであれば、進めていただきたいと思います。

次に、地域海岸についてお伺いします。

2020年の東京オリンピックで、サーフィンが正式種目に選ばれ、その試合会場は、千葉県の一宮町に決定しました。この一宮町を含む千葉県の九十九里浜一帯は、大規模な海岸侵食の問題を抱えております。

屏風ヶ浦、太東崎の海食崖、侵食を食い止めるための消波堤を築いたことによって、海岸侵食が始まったと言われております。千葉県では、旭市の飯岡漁港から一宮町の太東漁

港までの約60キロメートルの侵食対策対象エリアと位置づけているようです。

かつては、豊かな砂浜を形成し、海水浴客やサーフィンを楽しむ観光客でにぎわい、漁業も盛んで、ウミガメの産卵なども確認されております。

県では、侵食防止のため、人工的に砂を供給する養浜、砂浜から海に突き出したヘッドランドというT字型の堤防、あるいは、沖合に海岸と平行して設置する離岸堤などの設備が必要と聞いております。

そこで、県では、九十九里浜全域での対策は、どのように行っているのかお伺いします。

○議長（加藤忠勝君） 都市建設部長。

○都市建設部長（平出博男君） 九十九里浜全域での海岸侵食対策につきましては、国が定める海岸保全基本方針に基づき、千葉県が平成28年9月に策定いたしました千葉東沿岸海岸保全基本計画は、茨城県境から洲崎まででございます。それにより、各海岸の特性に応じた海岸保全を千葉県において推進しているところでございます。

施設整備といたしまして、旭市から匝瑳市及び長生村から一宮町の海岸においては、先ほど議員がおっしゃいました離岸堤、これは、海岸の砂が波で沖にとられることを防ぐ構造物でございます。

また、人口岬、ヘッドランドでございますが、こちらは海岸の砂の流出を防ぐ構造物での整備が、実施されているところでございます。

○議長（加藤忠勝君） 石川議員。

○3番（石川和久君） 次に、山武市の海岸侵食状況と見通しについてお伺いします。

○議長（加藤忠勝君） 都市建設部長。

○都市建設部長（平出博男君） 現状でございます。こちらにつきましては、平成21年3月策定でございますが、千葉県で策定いたしました南九十九里浜養浜計画によりますと、九十九里浜の海岸侵食の状況は、昭和40年ごろまでは、砂浜全体は、比較的安定していたということでしたが、さまざまな海岸施設整備に伴い、海岸の両端部から、経年的に現在も侵食が進む一方、漁港付近では堆積が進んでおりました。

本市におきましては、昭和23年の海岸線と比較いたしますと、木戸川付近を境にして、蓮沼地区側は、海岸線が後退、成東地区側は、逆に前進しているといった状況でございます。

今後の対策と見通しでございますが、侵食対策を進めるため、現在、九十九里浜侵食対策検討会議において、侵食対策の基本方針、整備方針、侵食対策計画について検討が行われており、砂浜の幅、40メートル確保を目的として、関係機関の意見を踏まえ、今後、侵食対策計画を策定することとなっております。

本市の海岸につきましては、現況で砂浜の幅は約60メートルから160メートルを有しております。これは将来的に堆砂傾向が見られ、特に本須賀海水浴場においては、片貝漁港の

影響により、堆砂が強まり、良好な砂浜として、今後の各種イベント等にも活用できるものと予想しております。

以上です。

○議長（加藤忠勝君） 石川議員。

○3番（石川和久君） ありがとうございます。今、御答弁で40メートルを確保ということで、我が市保有の海岸は60メートルから120メートルあるということで……。160メートルから120……。失礼しました、160メートルを維持し、さらに堆砂するということで、問題はないと、今の答弁では感じております。

しかしながら、県で40メートルということですがけれども、ぜひ、この海岸、一部は堆砂しますけれども、蓮沼寄り側のほうでしたりとか、侵食する可能性がある場所等については、安心をせずに、県の事業でございますけれども、会議のほうでは市長のほうも参加されると思いますので、これからも、ぜひ状況等を詳しく聞いていただいて、他人事とは思わず、また今後進んでいただきたいと思います。

次に、ブルーフラッグの認証について質問をします。先ほど、櫻田議員のほうで御質問があったと思いますので、重複する点があると思いますが、質問していきたいと思います。

ブルーフラッグの認証基準は、先ほどの御答弁の中で、大きく分けて、環境教育、水質、環境マネジメント、安全とサービスの4つのカテゴリーに分かれているということでございました。まさに先ほどの質問にもありました、地域の活性化につながると思います。

もちろん、活性化ということは重要でございますけれども、市長の御答弁でありました、ブルーフラッグは、持続可能な社会の構築に向け、海水浴場における環境保全、環境教育を推進するためのツールが意義であるというように、私はこれからの未来ある山武市には、海水浴場における環境保全、そして、それを理解するための環境教育が重要であると考えております。

市長にお伺いします。ブルーフラッグの取り組み経緯についてお伺いします。

○議長（加藤忠勝君） 市長。

○市長（松下浩明君） 御質問ありがとうございます。これは、県議時代に、議員の活動の1つとして、山武市の資源であります海岸の保全に関して、情報を収集しておりました。その際、平成26年度に県の観光企画課の国際環境認証ブルーフラッグの説明会、ブルーフラッグセミナーに参加し、ブルーフラッグの存在を知りました。

説明会では、高浜町の担当職員が講師として招かれておりまして、その後、ブルーフラッグを取得したとお聞きをいたしましたので、私も福井県の高浜町の若狭和田ビーチ、また、鎌倉市の由比ガ浜海水浴場の2カ所の現地視察をまいりました。

この2カ所は、ちょっとタイプが違うのかなと。都市型と、ある意味、地方型ということで、タイプが違うということで、非常に参考になるなということで、視察をまいり

ました。すばらしい取り組みだと感じまして、これを山武市でもできないかなというように思っておりました。

山武市での取り組みを考えてみますと、本須賀海水浴場が、常設のトイレ、また駐車場が整備されており、ヤシの木などの植樹がされていること、広い砂浜など、景観も申し分なく、ここで取得できるのではないかなと思っておりました。

もう1つですが、議員その前に質問の侵食対策ということもありましたが、本須賀海岸は、今のところは、砂浜がそんなになくなっているわけではございませんが、この指定を受けるということは、ある意味、注目されるわけですので、もしもですが、いろいろな環境の変化から、砂浜がなくなっていくときには、やはり、千葉県としても、ブルーフラッグを取得した地域が減っていくということで、非常に注視されるわけでありまして、そういった広いことも考えますと、ぜひ、今回これを挑戦して、何とかしてみたいなと思いました。

○議長（加藤忠勝君） 石川議員。

○3番（石川和久君） 先ほどもお話ししましたように、ブルーフラッグ認証の目的は、海水浴場における環境保全、環境教育を推進するためのものです。

市長の環境保全・教育についての考えをお伺いします。

○議長（加藤忠勝君） 市長。

○市長（松下浩明君） 特に環境保全の活動では、地域の皆様の協力なくしてはできないことなので、保全活動を通じまして、地域が一体となり、美しい海岸を守り、次の世代に継承することで、ふるさとに対する愛着が深まり、このような活動を継続していくことで、地域コミュニティの活性化につなげていきたいと考えております。

○議長（加藤忠勝君） 石川議員。

○3番（石川和久君） 環境教育活動の……。ちょっとあれですね。何か答弁が違いますよね。

○議長（加藤忠勝君） 市長。

○市長（松下浩明君） 私のほうで、ちょっと答弁が違いました。含めますけれども、本須賀海岸の近隣にお住まいの方だけではなくて、市全体で取り組んでいきたいと考えております。

とにかく次世代に継承していくためにも、子どものうちから、環境保全について学んでいくためのセミナーなどを開催して、学びの機会を設けていきたいと考えております。まことにすみませんでした。

○議長（加藤忠勝君） 石川議員。

○3番（石川和久君） 環境教育活動の具体的な取り組みについてお伺いいたします。

○議長（加藤忠勝君） 経済環境部長。

○経済環境部長（越川 俊君） 具体的な取り組みといたしましては、来年度、平成31年度の取り組みとして、環境教育の一環として、環境保全促進助成事業を獲得いたしました。その助成事業を活用いたしまして、専門の講師を招き、子どもたちや地域の方々に参加していただける環境についても、勉強会や現地視察会を計画しておるところでございます。

また、ビーチクリーンも、環境教育の1つでございますので、今、実際に、学生等やいろいろなボランティア団体等が活動しています。その方々と連携を密にしながら、より多くの方々に、そういった活動に参加していただけるよう努力してまいります。

○議長（加藤忠勝君） 石川議員。

○3番（石川和久君） では、最後の質問になります。

変わりゆく自然環境の中、ブルーフラッグ認証を持続可能なものにするには、環境マネジメントが重要であると私は考えております。

市の考えと取り組みについてお伺いします。

○議長（加藤忠勝君） 経済環境部長。

○経済環境部長（越川 俊君） 持続可能な発展に向けて、ブルーフラッグの中で、一番重要であると考えものが、ブルーフラッグビーチ管理委員会の設置が重要であると考えておるところでございます。ブルーフラッグの取り組みについては、理解を深めてもらう活動をしながら、協力していただける方々と、海の関係者、関係する事業者等、ライフセーバー、海上保安庁などの行政機関との連携を図りながら、管理委員会の設立を目指し、海水浴場の環境が継続的に維持できるよう努めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（加藤忠勝君） 石川議員。

○3番（石川和久君） ありがとうございました。地域海岸ということで、環境保全というものが、非常に重要なのかなと思います。海岸侵食もそうです、ブルーフラッグもそうですけれども、そして、環境の教育といったことを、ぜひ後世に伝えていただき、魅力ある山武市を引き続き、継続、そして発展できますようにしていただきたいと思います。

さまざまなことに御期待をいたしまして、私の質問を終わりにさせていただきます。ありがとうございました。